

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
理学療法 学科(昼)	人	人	人	人	人	9人	10人	人	20人	24人	
理学療法 学科(夜)	人	人	人	人	人	6人	9人	人	20人	13人	
計	人	人	人	人	人	15人	19人	人	40人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況 （昼）

分野	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	哲学	15	米村 豊	兼任
		心理学	15	鈴木 康弘	兼任
		教育学	15	米村 豊	兼任
		社会学	15	千田 佳遠里	兼任
		情報科学	15	下村 周平	専任
		物理学	15	鈴木 忠幸	兼任
		保健体育	15	鍋城 武志	専任
		医学英語	15	黒木 豊域	兼任
		人間関係学	15	臼杵 寛	専任
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び心身の 発達	解剖学Ⅰ	15	春原 正隆	兼任
		解剖学Ⅱ	15	春原 正隆	兼任
		解剖学Ⅲ	15	春原 正隆	兼任
		解剖学Ⅳ	15	土手 延恭	専任

専門 基礎 分野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学実習	15	岩田 衣世	兼任
		機能解剖学Ⅰ	15	村井 敦士	専任
		機能解剖学Ⅱ	15	村井 敦士	専任
		生理学Ⅰ	15	黒澤 美枝子	兼任
		生理学Ⅱ	15	黒澤 美枝子	兼任
		生理学Ⅲ	15	小平 健太郎	兼任
		生理学実習	15	渡邊 信博	兼任
		運動生理学	15	高林 礼子	専任
		運動学Ⅰ	15	臼杵 寛	専任
		運動学Ⅱ	15	臼杵 寛	専任
		運動学実習	23	下村 周平	専任
		人間発達学	15	黒木 光	専任
		生涯発達概論	8	黒木 光	専任
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促 進	病理学概論	15	プルカット・アルミラ	兼任
		臨床心理学	15	鈴木 康弘	兼任
		内科学・老年学Ⅰ	15	佐久間 肇	兼任
		内科学・老年学Ⅱ	15	佐久間 肇	兼任
		整形外科Ⅰ	15	植松 卓哉	兼任
		整形外科Ⅱ	15	植松 卓哉	兼任
		神経内科学	15	田口 丈士	兼任
		精神医学	15	河邊 宗知	兼任
		小児科学	8	右田 真 他	兼任
		総合セミナー	15	高瀬 慎輔	専任

	保健医療福祉 とリハビリテ ーションの理 念	リハビリテーション医学概論Ⅰ	15	草野 修輔	専任
		リハビリテーション医学概論Ⅱ	15	石川 秀志	兼任
		公衆衛生	8	今井 敏夫	兼任
専門 分野	基礎理学療法 学	理学療法概論	15	高林 礼子	専任
		病態運動学	15	塩澤 和人	専任
		理学療法研究法	8	高林 礼子	専任
		P B L セミナーⅠ	15	塚本 奈々子	専任
		理学療法セミナーⅠ	30	佐藤 和世	専任
		理学療法セミナーⅡ	30	高瀬 慎輔	専任
		専門基礎医学演習Ⅰ	15	土手 延恭	専任
		専門基礎医学演習Ⅱ	15	塩澤 和人	専任
	理学療法管理 学	理学療法管理学	15	臼杵 寛	専任
	理学療法評価 学	検査測定法Ⅰ【バイタル・形態】	15	塩澤 和人	専任
		検査測定法Ⅱ【MMT・ROM】	23	木下 修	専任
		検査測定法Ⅲ【反射・中枢】	23	佐藤 和世	専任
		検査測定法Ⅳ【整形・動作】	15	土手 延恭	専任
		検査測定セミナー	15	内山 結城	専任
		運動動作解析学	15	佐藤 和世	専任
		P B L セミナーⅡ	15	塚本 奈々子	専任
		P B L セミナーⅢ	15	塚本 奈々子	専任
	理学療法治療 学	運動療法学Ⅰ	15	吉葉 則和	専任
		運動療法学Ⅱ	15	内山 結城	専任
		物理療法Ⅰ	15	篠田 良平	専任
		義肢装具学Ⅰ	15	木下 修	専任

義肢装具学Ⅱ	15	石垣 栄司	専任
日常生活活動学Ⅰ	15	鍋城 武志	専任
日常生活活動学Ⅱ	15	鍋城 武志	専任
疾患別理学療法Ⅰ－A【整形・脊損】	15	木下 修	専任
疾患別理学療法Ⅰ－B【整形】	15	土手 延恭	専任
疾患別理学療法Ⅱ－A【中枢】	15	佐藤 和世	専任
疾患別理学療法Ⅱ－B【高齢者】	8	高林 礼子	専任
疾患別理学療法Ⅲ－A【神経内科】	15	塚本 奈々子	専任
疾患別理学療法Ⅲ－B【神経内科】	15	塚本 奈々子	専任
疾患別理学療法Ⅳ－A【呼吸器】	15	鍋城 武志	専任
疾患別理学療法Ⅳ－B【循環器・代謝】	15	高瀬 慎輔	専任
疾患別理学療法Ⅴ【脳性麻痺】	15	村木 正昭	兼任
理学療法技術論Ⅰ【関節】	15	黒木 光	専任
理学療法技術論Ⅱ【筋膜】	15	村井 敦士	専任
理学療法技術論Ⅲ【軟部組織】	15	黒木 光	専任
理学療法技術論Ⅳ【PNF】	15	内山 結城	専任
理学療法技術論Ⅴ【中枢】	15	佐藤 和世	専任
スポーツ臨床治療学	8	橋本 悠太	兼任
理学療法特論Ⅰ	30	塩澤 和人	専任
理学療法特論Ⅱ	30	塩澤 和人	専任
理学療法特論Ⅲ	30	塩澤 和人	専任
理学療法特論Ⅳ	30	塩澤 和人	専任

地域作業療法学	地域理学療法学	15	下村 周平	専任
	地域理学療法演習	8	下村 周平	専任
	生活環境論	15	高林 礼子	専任
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ			
	臨床見学実習Ⅱ			
	臨床実習Ⅰ【評価】			
	臨床実習Ⅱ【総合】			

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況 (夜)

分野	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	医学倫理	8	千田 佳遠里	兼任
		心理学	8	小野寺 哲夫	兼任
		導入演習	15	高橋 豊	専任
		人間関係学	15	川村 啓輔	兼任
		情報科学	15	篠田 良平	専任
		基礎演習	15	高橋 豊	専任
		自然科学	15	野村 崇	兼任
		保健体育	15	小平 健太郎	兼任
		英語	8	黒木 豊域	兼任
専門基礎分野		解剖学Ⅰ	15	春原 正隆	兼任
		解剖学Ⅱ	15	春原 正隆	兼任

人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅲ	15	春原 正隆	兼任	
	解剖学Ⅳ	8	篠田 良平	専任	
	機能解剖学Ⅰ	15	石垣 栄司	専任	
	機能解剖学Ⅱ	15	石垣 栄司	専任	
	生理学Ⅰ	15	越智 広樹	兼任	
	生理学Ⅱ	15	越智 広樹	兼任	
	生理学Ⅲ	15	小平 健太郎	兼任	
	生理学実習	15	渡邊 信博	兼任	
	運動学Ⅰ	15	臼杵 寛	専任	
	運動学Ⅱ	15	臼杵 寛	専任	
	運動学実習	23	篠田 良平	兼任	
	人間発達学	15	黒木 光	専任	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	15	何 聰	兼任
		臨床心理学	15	小野寺 哲夫	兼任
内科学・老年学Ⅰ		15	本間 博	兼任	
内科学・老年学Ⅱ		15	本間 博	兼任	
整形外科Ⅰ		15	星野 雄一	兼任	
整形外科Ⅱ		15	星野 雄一	兼任	
神経内科学		15	斎藤 史明	兼任	
精神医学		15	河邊 宗知	兼任	
小児科学		8	江添 隆範	兼任	
保健医療福祉とリハビリテーションの概念	リハビリテーション医学概論Ⅰ	15	草野 修輔	専任	
	リハビリテーション医学概論Ⅱ	15	石川 秀志	兼任	
専門	基礎理学療法	理学療法概論Ⅰ	15	高林 礼子	専任

分野	学							
		病態運動学	8	鈴木 雅男	専任			
		理学療法研究法	8	黒木 光	専任			
		専門基礎医学演習Ⅰ	15	篠田 良平	専任			
		専門基礎医学演習Ⅱ	15	黒木 光	専任			
		総合演習Ⅰ	15	高橋 豊	専任			
	理学療法管理 学	理学療法管理学	15	吉葉 則和	専任			
	専門 分野	理学療法評価 学	検査測定法Ⅰ	15	木下 修	専任		
			検査測定法Ⅱ	15	吉葉 則和	専任		
			検査測定法Ⅲ	15	畠山 敦	専任		
			検査測定法Ⅳ	15	畠山 敦	専任		
			検査測定法演習Ⅰ	15	木下 修	専任		
			検査測定法演習Ⅱ	15	畠山 敦	専任		
			総合演習Ⅱ	15	畠山 敦	専任		
			理学療法治療 学	運動療法学Ⅰ	運動療法学Ⅰ	15	篠田 良平	専任
					運動療法学Ⅱ	15	畠山 敦	専任
					物理療法学	8	篠田 良平	専任
	義肢装具学	15			木下 修	専任		
	日常生活活動学Ⅰ	15			篠田 良平	専任		
	日常生活活動学Ⅱ	15			篠田 良平	専任		
	疾患別理学療法Ⅰ-A	15			米村 豊	兼任		
	疾患別理学療法Ⅰ-B	15			米村 豊	兼任		
	疾患別理学療法Ⅱ-A	15			鈴木 雅男	専任		
	疾患別理学療法Ⅱ-B	8			鈴木 雅男	専任		

専門 分野		疾患別理学療法Ⅲ-A	15	鈴木 雅男	専任	
		疾患別理学療法Ⅲ-B	15	篠田 良平	専任	
		疾患別理学療法Ⅳ-A	15	塩澤 和人	専任	
		疾患別理学療法Ⅳ-B	15	高瀬 慎輔	専任	
		疾患別理学療法Ⅴ	15	山本 紘靖	兼任	
		理学療法技術論Ⅰ	15	鈴木 章規	兼任	
		理学療法技術論Ⅱ	15	黒木 光	専任	
		理学療法技術論Ⅲ	15	畠山 敦	専任	
		理学療法技術論Ⅳ	15	水口 健一	兼任	
		理学療法技術論Ⅴ	15	鈴木 雅男	専任	
		総合演習Ⅲ	15	篠田 良平	専任	
		理学療法特論Ⅰ	30	黒木 光	専任	
		理学療法特論Ⅱ	30	黒木 光	専任	
		理学療法特論Ⅲ	30	黒木 光	専任	
		理学療法特論Ⅳ	30	黒木 光	専任	
	地域理学療法 学		地域理学療法学	15	下村 周平	専任
			生活環境学	15	下村 周平	専任
	臨床実習		臨床見学実習Ⅰ			
			臨床見学実習Ⅱ			
			臨床検査測定実習			
			臨床実習Ⅰ			
			臨床実習Ⅱ			

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院見学	1年次	臨床見学実習	5月
			10月
病院見学	2年次	臨床見学実習Ⅱ	10月/2月
解剖見学	2年次	解剖学Ⅳ	12月
解剖見学	3年次	解剖学Ⅳ	2月

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2

	自己点検・評価の体制がない。	1
--	----------------	---

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	(自己点検) 学内運営委員会 (評価組織) 学校関係者評価委員会
委員名 (委員長)	(学内運営委員会) 学校長 (学校関係者評価委員会) 委員に委嘱
組織の開催頻度	(学内運営委員会) 月 1 回 (学校関係者評価委員会) 年に 2 回
組織の取り組み内容	私立専門学校等評価研究機構で定める専門学校等評価基準に準じて
	自己評価を行い、報告書を取りまとめる。(6 月末まで)
自己点検・評価結果の公表	H P で公表 (URL : https://www.nitiriha.com)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	授業力向上委員会
	委員構成等	学校法人 敬心学園グループ全 5 校の教職員による編成
	改善の仕組みの実際	検討中

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価報告書を作成した後、学校関係者評価委員会を開催し、第三者的な観点で委員に学校運営に関する指導、助言をして頂く。

第三者評価については、本年度、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の審査を受審予定。

